

# 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより

第 137 号 (25 年度)

### 平成 25 年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館部会小中学校図書館部会 副部会長 **長野市立豊栄小学校 鈴木 明**

本年度の小中部会は、「豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭と学校司書との緊密な連携による学習・情報センター～」をテーマに取り組んで参りました。

県図書館大会にあたっては、開催支部である大北支部と連携を取りながら進めてきました。

講演会講師の井上一郎先生からは、文部科学省で新学習指導の作成にあられた経験から、笑いをまじえながらお話しいただき、小中部会の委員からも「授業を持っている先生には良かった」などの感想が聞かれました。

午後の研究部会では、「司書教諭の仕事」「司書教諭と学校司書」「司書の立場からの授業支援」「図書館運営のあり方」「読書指導のあり方」の分科会の準備と運営にあたってまいりました。レポート発表やワークショップ、フリートーキングなどを行いました。事後のアンケートによれば、実践の紹介などによって、明日から活動の意欲をかきたてるものになったようです。

一つの例ですが、本年度の司書部会は「司書の立場からの授業支援」とテーマを掲げたところ、定員を上回る参加希望があったとのこと。司書として授業の役に立ちたい、でも、どうすればいいのかわからない、提言をしたらでしゃばっていると思われるのではないかなど、悩みに寄り添おうとするテーマが共感を呼んだのではないのでしょうか。今後とも、管理職の理解を得るよう働きかけながら、司書教諭をはじめとする教職員とのコミュニケーションを大切にしていくなかで必要性をあらためてうたえたいと思います。

また、各地区学校図書館大会は、北信地区が長野支部、東信地区が佐久支部、南信地区が下伊那支部の計画により実施されました。北信越学校図書館大会は、富山県で行われました。今後も、新学習指導要領に対応する図書館教育の方向性をさぐる実践の積み重ねを期待します。

このほかの活動としては、読書感想文及び読書感想画コンクールの作品募集を行いました。

例年と比較して、読書感想文の応募校数は過去 5 年間で一番多いとの報告が寄せられました。ただ、作品数は減ったとのことで分析をする必要も示されました。応募にあたっては、審査基準を満たす指導が望まれます。長野県課題図書購読冊数に関しては、児童生徒数が減少しているにもかかわらず購読率と共に伸びたという報告がありました。

最後になりましたが、本年度長野県図書館協会小中部会の諸活動に御協力いただいた皆様に心より御礼申し上げますとともに、来年度茅野市で行われる第 64 回長野県図書館大会へのご支援、御協力をお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

## 支部だより

### 諏訪支部

#### 一年間の活動を振り返って

諏訪支部代表 茅野市立豊平小学校 矢崎進一

諏訪支部は、小学校30校、中学校16校、公共図書館6館で構成されています。小中学校部会運営方針「豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭と学校司書との緊密な連携による学習・情報センター～」を受け、次のように本年度の事業を行いました。

#### 1 主な事業とその概要

(1) 平成25年度 役員及び組織構成

(2) 諏訪支部総会及び研修会 平成25年7月5日(金) 諏訪教育会館 72名参加

〔総会〕 役員承認、事業報告、事業計画・決算および予算承認、他

〔研修会〕 司書および司書教諭研修会(講演会)

講師 上島陽子先生(辰野中学校司書)

演題 「授業で役立つブックトーク」

(3) 第63回長野県図書館大会参加 24名参加

平成25年10月19日(土) 大町市文化会館、大町公民館、他

レポート発表 第5分科会「司書教諭と学校司書」宮坂文子教諭(富士見小学校)

(4) 南信地区図書館教育研究会 18名参加

平成25年11月15日(金) 豊丘北小学校、豊丘中学校、豊丘村保健センター

レポート発表 第2分科会「利用指導」中澤純彦教諭(下諏訪北小学校)

(5) 読書感想文コンクール審査

平成25年9月24日(火) 諏訪教育会館

応募総数 343点(小学校263点、中学校80点) 県送付代表作品46点

#### 2 一年間を振り返って

(1) 総会では、長野県図書館協会会長牛山圭吾先生にご出席いただき、時代のニーズに合わせた図書館のあり方などについてお話しをお聞きすることができました。司書および司書教諭研修会は、講師に上島陽子先生をお願いし、調べ学習につながる授業に役立つブックトーク、「読んでみたい!」と思う気持ちにさせるブックトークを先生の実践をとおして講演をしていただきました。学びの多い研修となるとともに、司書および司書教諭と学校司書との緊密な連携の場にもなりました。

(2) 平成26年度長野県図書館大会が諏訪地区で開催されます。茅野市開催、茅野市民館・永明中学校会場、講演者も決定し、茅野市らしさを発信できるよう組織づくりや具体的な計画を進めているところです。〔開催日;平成26年11月8日(土)〕

上水内支部は、平成19年度まで、17校あった学校が、町村合併と信濃町内の小学校統合により、平成24年度から8校となり学校数が半分になってしまいました。大変小さな支部になりましたが、校舎の新築に伴って新しい図書館が2つできたり、図書館司書の完全配置がなされたり多くの点で充実を見てきています。支部としても図書館の充実に力を入れようと、司書の先生方の研修に力を入れるなど、以下のような事業を行ってまいりました。尚、来年度は、校長会が長野市と合併する予定になっていますので、来年度限りの活動になる見込みです。

1 図書館協会支部総会兼前期研修会 6月6日(木) 参加者 12名

(1) 各学校図書館の実践や悩み等の情報交換を行い自校に生かしてくことを確認しました。

(2) 研修会 「選書の仕方と図書館の環境づくり」

～子どもたちと本をつなぐ 子どもたちと本でつながる～

講師： 県図書館協会理事 JPICブックアドバイザー

堀内 京子 先生

○子どもと本をどのようにつなぐか広い視野で、物的・人的環境を整えていくためのノウハウ学びました。

3 町村別部会 部会ごとに実践発表をし合い自校に生かす研修を行う

4 後期研修会 11月19日(火) 参加者 13名

「子どもと本をつなぐ」 ～読み聞かせにブックトークをつなげて～

講師： 県PTA親子読書推進の会会長・JPICブックアドバイザー

小林 いせ子 先生

○読み聞かせからブックトークへと本の楽しさをつなげていく技術。ブックトークを身近にできるよう、発想の転換をしていくことを学びました。

5 長野県読書感想文コンクール募集と支部審査

6 長野県図書館館大会への参加 10月19日(土)

7 北信地区図書館教育研究会への参加 9月 5日(木)

## 図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

### 「図書館ステップアップ講座研修」に参加して

山ノ内町立南小学校 高沢佳代子

夏休みでちょうど時間的に余裕があったので、参加しました。午前中は信州大学教授の藤森裕治先生の講義でした。テーマは「子どもの頃の読書活動は成人の現在にどんな影響を与えているか」です。子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究で「子どもの頃本をたくさん読んだ人ほどボランティア活動に参加する人が多い」という結果が出ていることを受けて、過去は未来にどう関わるかというお話をお聞きしました。私の心に残ったのは、子どもの頃の読書の充実（読書量もちろんですが、読書の多様性も大事）が、大人になった時、人としての充実にかかわるということ、読書は人間関係を耕し、自信のある人間を作るということです。私自身について振り返ると、読書は好きでしたがどうも9分類（文学）に偏っていたのではないかと反省です。これからの子どもたちには、さまざまな本に出合わせ、充実した読書生活をさせてあげることが必要なのだと感じました。午後は堀内京子先生に朗読や紙芝居の基本を教えていただき、参加者でグループを作って演習をしながら楽しく学ぶ時間になりました。

### 図書館協会専門研修 学校職員向けステップアップ研修に参加して

松本市立並柳小学校 中村 由美子

『今年度は学ぶ事を諦めない』と心に決めていたおりに、夏休み期間中に専門技術の研究や有用な読書活動の実践をされている講師の先生方より学べた事は、充実した研修時間でした。時折、面白い本音が出たりして先生方を近くに感じられました。学校司書は各学校にたった1人、日頃良くして頂いていても堪らなく孤独を感じる事があります。もっと、学び、活かし、前に進みたいと思います。

今回の研修で、なかなか知る事が出来ない光村図書の国語教科書編集の話や統計の面白さ、紙芝居の基本、校長先生が図書館長という羨ましい取組み、公共図書館、司書教諭、学校司書の連携する活動は理想の形の一つと感じ、これからの学校図書館について考えました。

授業で役立つブックトークの実践実例では、こんなにも沢山の司書の引き出しをお持ちで、中学校ではこの様な高度な事が出来るのかと感心しました。これからも子ども達が、多くの実りある本と出合えるように、丁寧な対応とよみかせやミニブックトークを日々実践してゆこうと思います。

## 読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

長野市立芋井小学校 西尾邦彦

平成25年度、第36回長野県読書感想文コンクールについて報告します。

各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：358校	◇応募作品数：4136点
◇県入選（県応募）作品数：605点	◇県入賞作品数：188点
◇中央審査会応募作品数：12点	*全て小・中学校の合計

本年度は、応募総数で昨年度より1000点程減じましたが、応募校数では大きな減少は見られませんでした。学校数が減少してきている中で、過去5年のデータでは上位にランクされる校数となっています。これは、各校がこのコンクールを大切に扱っていただいていることの現れだと考えられ、応募いただいたそれぞれの学校の先生方、呼びかけていただいた各支部の皆様には感謝致します。

また、審査段階では、課題図書を読み、多くの作品を審査いただいた支部・県審査員の先生方にも感謝申し上げます。そんな審査員の先生方から、「自分の経験と重ね合わせて感想を書いている作品や、今までの自分の生活を振り返って、自己を見つめて書いている作品、読書によって今まで目が向かなかったことについて考えるきっかけをつかんでいる作品があり、優れた文章に出会えたことが自分自身の宝物となり、糧となりよかった。」といった審査後のコメントをいただきました。その一方で、課題としていくつか上がった中から、今年も「規定字数」について、『制限字数以内・8割以上』を守ってほしいという声が多く出されました。本年度は、募集要項に『8割以上』と明記した関係で、**字数の足りない作品は、その段階で落選**という厳しい審査を行いました。また、この規定に関し、特に低学年で学校独自の様々な字数の原稿用紙にまとめられているために、字数のカウントの負担も大きいという声も寄せられました。そこで、来年度より県図書館協会のホームページから「感想文コンクール専用原稿用紙(低学年用・高学年用)」をダウンロードできるようにしたいと考えています。審査員の先生方も、通常のお仕事を進めながら、本審査に集中して1ヶ月間取り組んで下さっているわけで、ご理解とご協力をお願いしたいです。

続いて、第25回読書感想画コンクールについて報告します。

各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：17校	◇応募作品数：234点	◇県入選作品数：38点	◇
中央コンクール応募作品数：10点	*全て小・中学校の合計		

読書感想画の取り組みは、感想文以上に難しいところがあります。そんな中、小学校では学級単位で、中学校では部活動制作として、応募していただきありがたいことです。続けて応募してくれる児童で、その成長が審査員にも伝わってくる作品がありました。本コンクールの意義を感じる一コマでした。

最後に、両コンクールに応募していただいた児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた皆様に重ねて感謝申し上げます。来年度も子ども達の豊かな読書生活のさらなる広がりを期待したいと思います。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第137号 発行日 平成26年2月28日 発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内 長野県図書館協会 小中学校図書館部会 (代表 関間昇)
---